

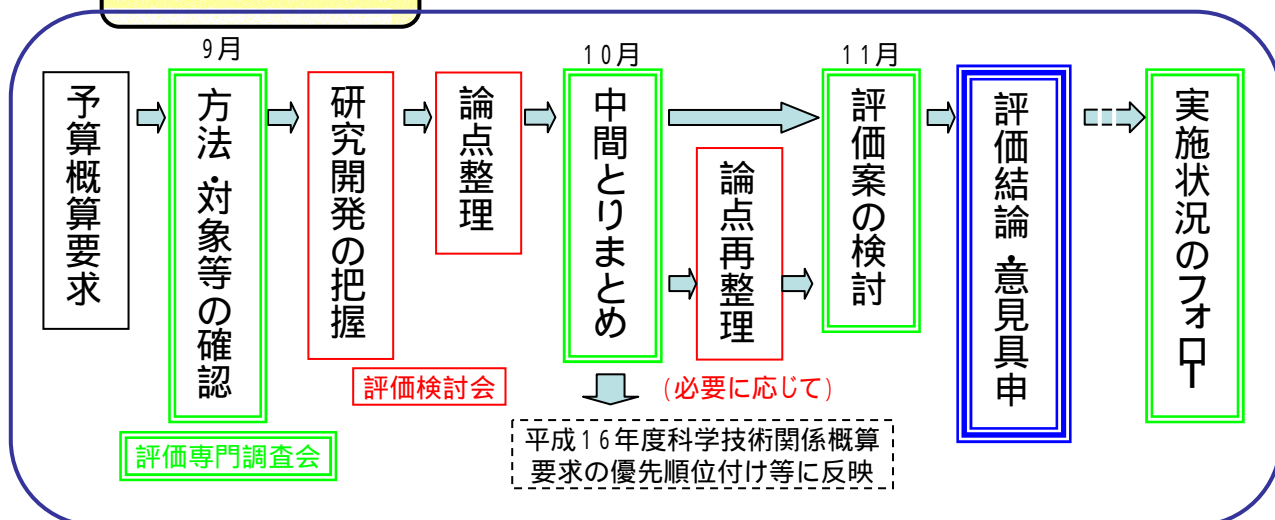
平成15年度に総合科学技術会議が実施する国家的に重要な研究開発の評価
大規模新規研究開発の評価(案)【概要】

目的: 新たに実施される国費総額が約300億円以上の研究開発につき、総合科学技術会議が評価し、その結果を公開するとともに、評価結果を推進体制の改善や予算配分に反映

検討方法: 府省による概算要求を受けて、評価専門調査会において外部専門家等も参加して調査・検討
 (中間とりまとめを平成16年度科学技術関係概算要求の優先順位付け等に反映)

研究開発名	内容	評価結果の要点
ゲノムネットワーク研究 【文部科学省】	<ul style="list-style-type: none"> 遺伝子の発現調節機能や、生体分子間の相互作用を網羅的に解析し、生命の分子ネットワークを明らかにして、統合データベースに構築。 年間80億円 / 5年間で総額400億円。 	<p>ゲノム機能解析の激しい国際競争の中で、その基盤となる重要な研究であり、医療を念頭に、ヒトを主たる解析対象とすべき。</p> <p>公募研究の割合を増加することにより、わが国の関係研究勢力を結集して推進すべき。</p>
南極地域観測事業 【文部科学省】	<ul style="list-style-type: none"> 昭和31年度に観測開始。南極条約に基づく国際協力により観測を継続中。「しらせ」後継船及びヘリコプターを新造。 後継船総額399億円、ヘリコプター総額120億円等。 	<p>これまでの成果や国際的意義等からみて南極観測は重要であり、後継船等の新造は必要。</p> <p>環境研究など今後重要な分野の幅広い研究者への公開性を高めて着実に継続すべき。</p>
アルマ計画 【文部科学省】	<ul style="list-style-type: none"> 日米欧の協力により、南米チリの高地に、巨大電波望遠鏡を建設し、ミリ波や未開拓のサブミリ波を使用して、太陽系外の惑星、生命関連分子等を観測。 日本負担の建設費総額256億円、年間運用費30億円。 	<p>惑星形成や生命起源に迫る価値の高い国際計画である。</p> <p>参加の遅れを不利にしないよう、わが国の優位な技術分野でイニシアティブを発揮しつつ参加すべき。</p>
先端計測分析技術・ 機器開発事業 【文部科学省】	<ul style="list-style-type: none"> 最先端の計測分析技術や機器の創造的開発を支援することを目的として競争的研究資金を創設。 平成16年度100億円 / 6年間で総額584億円。 	<p>創造的な研究活動の発展を促すため、この分野の技術・機器の開発は不可欠。</p> <p>有望なアイデアと高い技術力を結びつけ、強力な産学連携の下で、重要課題として推進すべき。</p>
第3次対がん10か年総合戦略 に基づく研究開発 【厚生労働省・文部科学省】	<ul style="list-style-type: none"> 過去2次にわたる10か年戦略の成果等をもとに、平成16年度から「がんの罹患率と死亡率の激減」を目指して、研究、予防及び医療を総合的に推進する第3次戦略の下で行われる研究開発。 平成16年度216億円。 	<p>目標達成のため研究開発は重要。応用・臨床研究に資源を重点的に投入し、両省一体の研究体制を組織して総合的に推進すべき。</p> <p>医療経済性を重視して、予防・治療の研究開発を行うべき。</p>

評価の手順



調査・検討項目

- A. 科学技術上の意義
当該研究開発の科学技術上の目的・意義・効果。
- B. 社会・経済上の意義
当該研究開発の社会・経済上の目的・意義・効果。
- C. 国際関係上の意義
国際社会における貢献・役割分担、外交政策との整合性、及び国益上の意義・効果。
- D. 計画の妥当性
目標・期間・資金・体制・人材や安全・環境・文化・倫理面等からの妥当性。
- E. 成果、運営、達成度等
投入資源に対する成果、運営の効率性、及び目標の達成度等。評価結果の反映状況の確認等。
(ただし、Eについては、新規研究開発であることから、その内容を考慮。)